

社民党

渡辺みのる通信

● 第 21号 ●

発行日 / 2012年(平成24)10月(9月議会号)
 発行 / 渡辺みのる後援会
 石川町大字北山形字引地1
 電話 & FAX 0247-26-6994
 携帯 090-2798-0434



写真説明

一面に黄金色になった田のあぜ道を歩いていると、遅咲きのアザミの花に、蝶がみつを求めて舞っていました。秋の青空と雲に映えて、すがすがしさを感じます。

重要課題にしっかり議会の役割を果たす

非常に暑い、カラカラの夏が終わったかと思うと、一気に秋ですね。

政府の福島原発事故の安全宣言とは裏腹に、私たちの目の前は、何一つ、先が見えない状況です。復興への先行きや健康への不安解消も見えていません。

町は、「小中学校の統廃合」「新庁舎建設」「工業団地への企業誘致」「原発事故からの復興」といった大きな課題を背負っています。

このような中で、9月定例議会が開催されました。

一般質問者は「平成23年度決算」「放射能教育の推進」「役場庁舎建設」の3点を質問しました。

審議では23年度決算の認定、4億4千万円増の補正予算を可決、そして、中島世一さんと高原一紀さんの教育委員任命に同意しました。

10月、11月は、実りの秋、文化の秋です。一瞬でも、放射能を忘れ、秋の風情を楽しみましょう。

**身近に、秋を
見つけてみませんか**

庭の彼岸花も、10月に入って、やっと芽を出しました。季節感を感じる事が少ない、この頃ですが、見つけた小さな秋を拾ってみました。

- ・稲穂がたわわに実り、刈り取られ、今では少なくなったはせ掛けが、何列にもつくられています。
- ・友人宅では、カンワラビがぞっくり芽を出しました。
- ・畑のナスの焼きナスは、うまみを増しています。
- ・文化祭の準備が始まりました。
- ・近所からいただいた栗のおふかしを美味しくいただきました。
- ・青い葉に隠れて、柿が黄色に色づいてきました。
- ・最近の雨で、やっときのこが芽を出しました。



▲庭に芽を出した彼岸花

◆一般質問から◆

渡辺：復興事業に積極的な取り組みを

町長：第5次総合計画の見直しを行い、来年度予算に反映させる

渡辺 平成23年度決算で、剰余金が5億5百万円になった原因は何か。

今は、国の支援も多くあり、放射能対策や将来に向けた、積極的に町復興事業に取り組む時期と思う。

町長 今まで剰余金は2億円程度であった。23年度は復興特別交付税の交付が年度末になったこと、災害復旧を優先したため、建設事業費を中心に執行できなかったことが例年を上回りました。

渡辺 職員が減少し、仕事が廻らなかつた分野もあるのではないかと。新しい事業に取り組む余裕がなく、マンパワーが不足しているのではないかと。

町長 決して、人が不足しているとは思わない。職員が以前にまして、事業に取り組んでおり、自慢できます。

渡辺 人員を確保し、将来のまちづくりをしっかりやっていただくように要望したい。



◀ホップの母種、カラハナソウ

渡辺 監査委員から見て、町財政の健全状況はどうか。

代表監査委員 今の段階では健全だと判断しています。

渡辺 町復興のための第5次総合計画見直しの時期と25年度予算に反映できるのか。

町長 12月に審議会からの答申をいただき、25年度予算に反映させたいと考えています。

渡辺 放射能の問題は、町の活力を更に奪う、地盤を沈下させることになりかねない。是非、国の支援を受けて復興事業に取り組んで欲しい。

町長 健全な町をアピールし、PRを継続していきます。

渡辺 今、剰余金の内1億円が留保になっています。剰余金の処分方法を議員に説明できないか。

町長 今後の災害などのための補正予算の留保財源です。

渡辺 東京電力への町として損害賠償はいつ行うのか。

町長 現在準備中で、11月頃には請求します。

👓 子どもの未来のために ② 👓

フクシマの子どものために
10月20日(土)講演会、語る会に参加を

福島県が「フクシマ」と書かれるようになりました。震災後の原発事故で福島県が放射能で汚染されたからです。震災前の福島県とはちがうのだと悲しくなります。でも、悲しんでばかりはいられません。子どもたちの未来は、私たち大人にかかっています。何か行動しなければと、毎週金曜日になると首相官邸まで足を運ぶ人たちがいます。でも、東京まで行かなくても、石川町内でフクシマの子どもたちのことを考える機会があります。

それは、10月20日(土)午後1時から石川中学校を会場に行われる講演にいてみることで。講師は、教育学者で國學院大学名誉教授の里見実さんです。「フクシマの子どもに学びをー今、経験を見つめようー」と題して行われます。里見さんは著書の中で、「教師たちがまず取り組むべきことは学校づくりであり、あたたかで協力的な子どもの関係性をつくりだすことだ」と語っています。学校や家庭、地域であたたかな関係をどうつくるか、いつの時代でも大切なことですね。

講演に引き続き「市民と語る会」が行われます。主催の教職員組合では、保護者や地域の皆さんの参加を呼びかけています。フクシマの明るい未来のために、学ぶ秋にしてみてもはどうでしょうか。

福島県教育研究集会記念講演・10月20日(土)
会場/石川中学校 時間/午後1時

9月補正予算4億4千万円の増
積立金に2億9千万円

9月議会で一般会計、4億4千9百万円増の補正予算が可決されました。

増やされた主な事業は

- ① 財政調整積立金へ 2億9千9百万円
これで積立金は8億1千4百万円となる。
- ② 道路維持補修事業 2千7百万円
- ③ 鈴木家土地購入費 1千4.5百万円
- ④ 消防施設整備事業(屯所) 1千2百万円
- ⑤ カリ肥料補助金 4.5百万円
- ⑥ 介護給付事業 1千6百万円
- ⑦ 訓練等給付事業 4.2百万円
- ⑧ 高齢者サロン施設整備事業 3.5百万円
- ⑨ 障害児通所給付事業 3百万円
- ⑩ 草地更新事業補助金 2.4百万円
- ⑪ 青年就農給付金 3.7百万円
- ⑫ 道路新設改良費 5.4百万円
- ⑬ 中学校施設改修工事 2.7百万円

◆一般質問から◆

渡辺：4月からの放射能教育で「放射線副読本」に問題はないのか。
子どもたちの人権教育の充実を

教育長：放射線を理解させるにはよい資料です。独自の資料はつきりません

渡辺 4月から小中学校、高校で、子どもたちに放射能教育が始まりました。文部科学省は「放射線副読本」、県教育委員会は「指導資料」をつくり、学校に配布しました。町の状況は。

教育長 小学校7校でこの副読本を使って、授業をしました。残る1校も今後予定しています。中学校も1校が実施、1校も今後予定しています。



9月6日、総務産業建設常任委員会で、米全袋検査視察

渡辺 この「放射線副読本」は多くの批判や意見が出ています。「福島原発事故や福島の現状、被害が一切書かれていない」「放射能の利用のみが強調されている」「原発や放射能が安全ということを教育しようとしている」などです。県内市町村の中には、独自の資料を作成するところもあります。町教育委員会の考えは。

教育長 放射線を正しく理解させる内容になっています。独自の資料を作成する考えはありません。

渡辺 文部科学省も、県教委も問題があり、1年で改訂版をつくる。町教育委員会でも議論して欲しい。又、日本生態系協会長が差別発言。「福島の子供は結婚しない方がよい、子どもを産むと奇形率が高まる」と。学校で、子どもたちに人権教育をしっかりと欲しい。公民館や自治センターでも行って欲しい。

原発川柳

本宮市にお住まいの伊東功さんは、この9月「原発事故の川柳400、脱原発」福島からの風」を自費出版されました。その中から12句をご紹介します。

- ・ 福島のはバスは楽々駐車でき
- ・ 加害者が我れ聞せずの除染かな
- ・ 菜の花にセシウム減らせの虫のよき
- ・ 放射線せめて夢でも色つきを
- ・ 觀光にかすかな明かりフラと八重
- ・ 保安院何をやっても不安院
- ・ 見てみたい花のお江戸の表土剥ぎ
- ・ 孫来たり水買ひ茶買ひ野菜買ひ
- ・ 下がらない気温血圧 炉の温度
- ・ 草むしり草と一緒に落むしり
- ・ 確認はシートベルトにシューベルト
- ・ 寂しげに警戒区域でダチョウ舞い



資料館の物教室で、砂金採取の実習

渡辺 庁舎建設で、再度、町民説明会を町長 答申後、建設を進める

渡辺 7月に、町民説明会を開いたが、その内容は。

町長 6地区133名出席。場所で意見が多く出された。

渡辺 庁舎は将来に向かって、町づくりの基礎となるもので、町の考えは。

町長 第5次総合計画の「みんなが主役、協働の町づくり」の拠点となる施設と考えています。

渡辺 8月に設置された庁舎建設委員会は、場所4ヶ所以外でも議論できますか。

町長 いろいろな意見が答申にでてくると思います。

渡辺 答申後、再度、町民説明会を開くべきです。

町長 答申ができれば、検討し、建設を粛々と進めます。

渡辺 庁舎建設に他市町村では、国の支援を受けています、町も対応して欲しい。さらに、今の庁舎が危険なら、早急に修繕し、町民や職員の安全を確保して欲しい。

これでいいか! 復興予算の横流し、約2兆円



国は今回の大震災と原発事故への対策予算19兆円を計上した。しかし、9月9日放映のNHK「東日本大震災追跡、復興予算」は、信じがたい内容でした。

被災地の復興復旧のために予算化されたお金が、被災地と関係ないところで、約2兆4千億円も使われているというのです。主なものは

- ・ 国内立地補助金で岐阜県関市のコンタクトレンズ工場の増設に。立地補助金の認可件数は、全国で510件、内岩手、宮城、福島でたった10件という。
- ・ 北海道と川越にある刑務所職業訓練施設に
- ・ 国立競技場の補修費に3億円
- ・ 反捕鯨団体対策に22億円
- ・ 沖縄県国頭村道路工事に5億円
- ・ アジア及び北米地域青年交流に72億円等々。

500を超える事業を調査した結果、被災地と関係ない事業は205に上っています。私たちは、黙っていて良いのでしょうか。多分これは氷山の一角でしょう。

小中学校統廃合の町民説明会を開催 本当にこれで良いのか、複式解消目的の統合(案)

町教育委員会は小中学校の統合計画(案)を作成し、7月、8月に町民説明会を開催しました。その時の意見や要望が次のように出されました。今後、小中学校設置条例の改正案が議会に提案され、その審議によって、次ぎに進むことになります。

●統合方法について●

(案)は、「小学校は山形小、南山形小、中一小、中二小、母畑小、石川小を統合、沢田小と野木沢小の3校、中学校は沢田中を統合し、1校とする」です。

- ①人口から見れば、2校が良い。
- ②なぜ、沢田小と野木沢小を残すのか、1校が良い。
- ③統合までの期間、学区の弾力的運用をして欲しい。学区は教委で決めているのではないか。
- ④沢田中の統合理由が分からない。ほとんど反対。子どもが少ないから統合が良いとは思わない。



▲県が8月から保育所、小中学校で子どもたちの放射能検査をしているホルボディカウンタール車(9月24日石川中学校で)



▲台風が過ぎた次の日、水玉と朝日に輝くツリフネソウ

●校舎建設について●

(案)は「現在の石川小を基本に、周辺を含めて新築することで検討しています」です。

- ①ダム決壊で危ない場所に建てるべきではない。
- ②現在の小学校地は、適地ではない。ダム災害時に対応できるのか。冬は半分雪が解けないグランド利用、教育活動が出来ない。道路も凍結したままだ。
- ③仮校舎をつくと、引っ越しを2回することになる。非常に無駄だ。
- ④小中連携を考えれば、近くにあった方がよい。

●教育内容について●

(案)では「めざすもの強い人間」「小中学校連携の強化」「スクールカウンセラーの充実」をあげています。

- ①統合して教育内容の充実を図ってほしい。
- ②児童のストレスに対応してほしい。
- ③統合後、子どもと教師、地域のつながりをどうする。

●通学方法について●

(案)は「路線バスを利用、路線バスがない時間は、委託バスを運行する。登校：路線バス1回、下校：路線バスと委託バスにより小学生2回、中学生1回」です。

- ①停留所から自宅が遠距離の1、2年生は困難だ。雨、風をしのげる待合所をつくって欲しい。
- ②バス停から遠いところは特別便を運行して欲しい。
- ③1年生をバス停から乗せて学校まで通わせるのはどうか。
- ④学校で乗降させ、添乗員を乗車させて欲しい。
- ⑤スクールバスをしっかりと運行すれば、送迎車は減らせる。
- ⑥部活を考えれば、スクールバスでないと対応できない。
- ⑦なぜ路線バスに、スクールバスが約束できなかったか。
- ⑧古殿や鮫川のように、スクールバスで安心できるように。

●周辺道路の整備について●

- ①歩道と車道を分離して、営業所から学校まで整備して欲しい。
- ②学校までバスが入れば、学校前で乗降できる。
- ③今でも狭く、危険なので、統合前に整備して欲しい。

●学童保育について●

(案)は「統合小学校で、学童保育を実施します。沢田小と野木沢小は子ども教室を継続します」です。

- ①夜7時頃まで、6年生まで入れるようにして欲しい。
- ②バス待ちの子どもにも使用料を負担させるのか。(現在は1~3年生、月2500円におやつ代500円)

朗報 — アルツハイマー型認知症が予防できる —

9月26日に放映の「ためしてガッテン」で、認知症の中で一番多い「アルツハイマー型認知症」が予防できるという。脳にアミロイドβと呼ばれる老廃物が溜まることで発病するもの。通常、老廃物は分解されていますが、インスリンが慢性的に多いと分解機能が弱くなって、脳に溜まるようになるというのです。つまり、インスリン過多を防ぐ、食生活が大事であるという。また、長時間頭を使う料理や有酸素運動が認知症予防によいとされています。